

農業大学校だより

vol.1

農業・農村が今面白い。

農業大学校長 松尾悦雄



私の友人Hさんは、代々のりんご農家です。忙しいときはパートの人をお願いしますが、4ヘクタール程の家族経営です。Kさんは研修生と家族4人で、有機野菜を3ヘクタール程栽培しています。Hさんは農家の長男で後継者、KさんはUターン農業者です。

二人のキーワードは、行動、挑戦、直売です。

自分の努力次第で良い物ができると、値段も自分で付けられるから「農業は面白い」と言っています。

Hさんの奥さんは、ご主人のりんごづくりと販売をサポートしながら、

とができなく、一番大切な食料を作り、自然の恵みを受けながら、自分の気に入った作物を、気持ちよく栽培していれば、農業は面白いはずです。わけあり農産物を生産し、自

ら販売をする人達は、農業・農村に大きなビジネスチャンスを見つけています。
Hさんの奥さんは、ご主人のりんごづくりと販売をサポートしながら、ご近所の仲間と果実のジャム作り、草木染めを楽しんでいます。奥さん曰く「価値観をしっかりと持っている、農村は生活感があって、楽しく、暮らしやすいワ！」

祝！関口君

信州大学農学部合格！編入学試験合格者第一号

一七年度から農業大学校が文部科学省所管の学校教育法に基づく専修学校としても位置付けられたことにより、四年生大学への編入学試験も受験できることになり、早速八月二三日に四名の二年生が信州大学農学部編入学試験にチャレンジしました。食料生産科学科三名の募集に対し一九名が受験するという狭き門でしたが、果樹コー

ス突破し、農業大学校初の編入学試験合格者となりました。

農業大学校としては、これまで総合農学科二年卒業後は専門技術科でさらに高度な専門性を養う体制を取ってききましたが、今後は学生の進路選択の幅が確実に広がり、後に続く学生の勉学意欲の向上に役立つものと喜んでいるところです。



オープンキャンパスでの校長のあいさつ

農業大学校初のオープンキャンパスを開催!!

去る八月一七日・一八日初めての試みとしてオープンキャンパスを実施したところ、農業大学校を志望する高校生や農業高校の先生、保護者の皆さんが県下一八校から五三名参加されました。本校の教育内容、修学経費、取得できる資格等の説明の後、施設や農場の見学をしていただきました。本年度から専修学校の位置付けを得たことにより、四年生大学への編入学試験が受験できることになり、学生の卒業後の進路選択の幅が広がったことに興味を覚えた方もいらっしゃいました。
松尾校長の皆さんへのプレゼンテーションは下欄のとおりです。

作物コース



水稻の収穫作業

一学年時には全員が「作物学総論」を学習し、二学年時にはコース選択者は必須で「作物学各論Ⅰ」でイネを主体に植物生理・栽培管理を、「作物学各論Ⅱ」で大豆や本県の特産的なソバ・キビ・エゴマなどの生態及び栽培法を学んでいます。

二学年で取り組むプロジェクト学習は、現在一〇名の学生が自主的に課題を設定し、水稻では減農薬・減化学肥料の環境に優しい栽培法、省力化と低コスト化を実現する不耕起直播栽培、今後中山間地で二層の振興が期待されているエゴマの栽培法の確立など積極的に取り組んでおり、この冬の成績発表会が楽しみです。

畜産コース

一学年時には全員が「畜産学総論」を学習し、コース選択者は、一学年時に「畜産学各論Ⅰ」・「畜産飼養学」等を、二学年時に「畜産学各論Ⅱ」で家畜の飼養管理技術等を、「家畜生理学」で解剖及び家畜衛生を、「飼料草地学Ⅱ」で飼料作物の生産・草地造成技術等を学んでいます。現在三名の二学年生がプロジェクト学習に取り組んでいます。肉豚の飼料給与法による肥育技術、肉牛の昼間分娩誘起と予測、飼料用トウモロコシの標高別品種特性試験です。なお本校には乳牛がないため、畜産試験場(塩尻市)及び酪農家の協力も得て実習や人工授精師・家畜商免許取得の学習をしています。



畜産試験場にて酪農実習

野菜コース



ジャガイモの定植作業

一学年時には全員が「野菜園芸学総論」を学習し、二学年時にはコース選択者は必須で「野菜各論Ⅰ」で野菜類各品目の生理・生態・栽培技術を、「野菜各論Ⅱ」で施設野菜の栽培技術を中心に学んでいます。本県は野菜の生産額が大きく、コースを専攻する学生も例年総合農学科の中では一番多く、本年も二五名の二学年生がそれぞれの課題を設定し、プロジェクト学習に取り組んでいます。主な課題の内容は、減農薬・減化学肥料栽培、灌水量の違いによる品質差、仕立て方法等の改善による省力化、機械定植の可能性等についてです。御牧原台地の強粘土の土壌に苦しみながら、品目によっては、夏期休暇返上で収穫調査等に取り組んでいる学生もいます。

花きコース

一学年時には全員が「花き園芸学総論」を学習し、二学年時にはコース選択者は必須で「花き各論Ⅰ」でキク、カーネーション、トルコギキョウ等主要切花類の生理生態・栽培技術を、「花き各論Ⅱ」でシクラメン等主要鉢花の栽培技術や経営技術等を学んでいます。本年度は二学年生が一〇名で、プロジェクト学習に取り組んでいます。

主な課題の内容は、わい化剤や用土の違い、仕立て方や施肥方法の違い、微生物資材の利用等が各種切花・鉢花の品質に及ぼす影響や薬剤を使用しない土壌消毒の効果等調査しています。



シクラメンの鉢替え作業

果樹コース



りんごの葉摘み作業

一学年時には、全員が「果樹園芸学総論」を学習し、二学年時にはコース選択者は必須で「果樹各論Ⅰ」でりんご・なし等仁果類の栽培技術を、「果樹各論Ⅱ」でぶどう・桃・ブルーベリー等その他果樹の栽培技術を中心に学んでいます。二学年時に取り組むプロジェクト学習には、本年は二名が取り組んでいます。主な課題はりんごのシナノスイートの心かび低減対策や柿酢を使った減農薬防除、巨峰の無核栽培などで毎日汗を流して調査研究を行っています。幸い今年の果樹は気象災害にも遭わず順調に生育しています。農大の果物は糖度も高く着色も良いので地域の人達にも好評です。一度味わっては如何。

経営戦略論



キャベツの収穫作業

平成二六年度から県内で先進的な農業経営に取り組んでいる農業者にお願いして、その経営理念や経営技術等を通じた経営戦略について修得する学科目「経営戦略論」を二学年時に履修しています。平成一七年度は、北は飯山市から南は松川町までの二九名の農業者に講師を依頼しており、六月二四日から二日一日まで各科目専攻コースでそれぞれ六回の講義と実習を実施しているところです。学生にとっても創意工夫を凝らした生産販売や現場の生の声に触れることができ貴重な学習の場となっており、学生アンケートで最も人気のある学科目となっています。

農村生活コース

農村生活コースは、より良い農村社会を追求し、「農村地域や農家における暮らし」を研究の対象とした実践的かつ応用的なコースです。農業生産の基礎知識や技術を習得するだけでなく、調理学、栄養学、被服学、農産加工学、看護学など個人の資質を高める科目を幅広く学習するとともに今話題のグリーンツーリズムを農村資源論で学んでいます。二学年時で取り組むプロジェクト学習では、昨年度は二名がそれぞれ「子供達に贈る野菜料理の研究」・「小布施の伝統料理の調査」に取り組みました。農業・農村の多機能性が重視されたり、食育基本法も制定されたりと本専攻で取り組む研究課題は増大しています。



被服学の実習

農産物マーケティング論

八月二三日から二泊三日で三重・愛知へ実習に行きました。

J A 鈴鹿の直売所「果菜彩」では生産者との意見交換や消費者へのアンケートを実施しました。

売り手はおいしい作物を作らねばいけないし、買手もそれを求めている。農場視察でも各農家の個性や工夫を感じることができ勉強になりました。

名古屋市中心卸売市場では物流面の合理化のため、今ではセリから殆ど予約相対取引となり、それが生産者・消費者ともにメリットになることを知りました。



直売所「果菜彩」での消費者アンケート

二学年 吉村亮平

プロジェクト学習

二学年 野菜コース 岡澤健志

私は、「メロンの立ち栽培と地這い栽培における品質や収量の違い」を課題に設定し、立ち



メロンの地這い栽培

栽培では子づる二本仕立ての二果、地這い栽培では子づる二本仕立ての二果として試験を行いました。その結果立ち栽培では全ての果実が非常に大果で、形もほぼ正球形となり、ネットも綺麗に発生しましたが、地這い栽培では果実の肥大にバラツキが見られ、ネットもアンデス系特有のネットになった物とそうでない物とバラツキが生じました。今回、このプロジェクトに取り組んで、作物を育てる難しさ、大変さを身をもって体験することが出来ました。

産地視察研修

一学年 山岸鮎美

七月五日から四泊五日で北海道農業の視察研修に行きました。美瑛町のジャガイモ集出荷施設、中富良野町のファーム富田のラベンダー園、夕張市のメロン栽培、早来町の大規模酪農の金川牧場、壮瞥町の観光果樹園（経営者の阿野さんは、本県の果樹実科・研究科卒業生）などを回りました。農家の人たちは皆自分の仕事に誇りやこだわりを持っていたことが共通で、これは私達の将来に大変参考になることだと思いました。また有名になった旭川市の旭山



中富良野町のファーム富田のラベンダー園

動物園や、登別の熊牧場、函館の夜景等観光地にも立ち寄り、北海道を十分満喫できました。

全国農業大学校交換大会に参加して



和歌山県・紀北少年の家の前にて

一学年 坂下淳樹

七月一九日から二泊三日で第三六回の交換大会が開催され、全国から二八〇名の学生等が集まりました。前回まで行われていた八ヶ岳中央農業実践大学校から会場を和歌山県農業大学校に移して行われ、当農大からは一学年三名が参加しました。

昨年に世界文化遺産に登録された高野山に数グループに分かれてハイキングをしました。険しい道の中で大変でしたが、全員無事に金剛峯寺にたどりつくことができました。交流を深めることができ、全国の農大生との交換という有意義な体験ができ感謝しています。

18年度長野県農業大学校「総合農学科」学生募集案内

■定員:60人 ■対象:高校卒等 ■修学年限:2年

■コース

作物・畜産・野菜・果樹・花き・農村生活の中から入学後の授業や実習等を通じて専攻コースを決定していただきます。

■資格・特典

- 在学中に次の資格・免許の取得のための学習等を行います。
毒劇物取扱者、大型特殊免許（農耕車に限る）、車両系建設機械運転技能、フォークリフト運転技能、小型移動式クレーン運転技能、玉掛け技能、産業用無人ヘリコプター技能、家畜人工授精師他
- 卒業者は、人事院規則等に基づき、短大卒業と同等に扱われ、また専門士の称号が付与されます。

■推薦入試

願書受付 平成17年10月17日～28日

入学試験日 平成17年11月22日

■一般入試

願書受付 平成17年12月22日～平成18年1月13日

入学試験日 平成18年1月23日

■問い合わせ先

長野県農業大学校事務局 TEL.026-278-5211(代)

